



七尾ふるさと大使 佐藤直子さん

世界的に活躍した元プロテニスプレイヤーで、「能登和倉国際女子オープンテニス」の実行委員長を務める佐藤直子さんが「七尾ふるさと大使」に就任しました。

七尾市とつながるきっかけは？

能登和倉国際女子オープンテニスが七尾市とのご縁のきっかけです。この大会は能登半島地震の際に、日本プロテニス協会として何か手助けできることがないかと考えていたときに、能登町から国際大会をしたいとお声掛けがあったことでスタートしました。

ところが、いろいろな事情から第10回大会限りで次の開催地を探さなければならなくなりました。国際大会の開催ができないかもしれないというときに、この和倉温泉の24面の立派なコートがオープンした際にゲ



さとう・なおこ

東京都千代田区出身。日本の女子選手で初めて世界のプロテニスツアーに参戦するなど、国際的なプロテニスプレイヤーとして活躍。引退後はテレビ・ラジオへの出演や講演、執筆活動も行うなど各方面で活動しているほか、テニス教室などを精力的に開催し競技の普及に努めている。

七尾の印象や 気に入っているところは？

私は歴史が好きなので、須曾蝦夷穴古墳が一番好きな場所です。ウグイスの声がすごく聞こえますし、海が広がっていて神秘的な空間に触れられるところがとても気に入っています。

ストとして呼んでいただいたことを思い出して、七尾市にお願いしたいです。そして2017年の第11回大会から和倉温泉で大会を開催しています。2020年、2021年は開催できませんでしたが、今年大会はコロナ禍で初めての女子の国際大会として開催しています。



七尾ふるさと大使として 意気込みをお願いします。

将来は観光バスがどんどん行くようになればと思っています。あとは温泉が一番の魅力ですね。この国際大会でも国内外の選手が疲れた体を温泉で癒し、新鮮な魚介類でエネルギーを補給して、試合に臨んでいます。選手たちも喜んでくれます。それから七尾の人たちはとても優しく、七尾市には年に何回も伺うのですが、とても温かく迎え入れてくれます。

ふるさと大使に就任させていただきましたが、力不足じゃないかと心配もあります。ただ、この大会には世界や日本中から、数千人数万人のファンを持っている選手たちが集まっています。選手たちがこの大会

を好きになってくれて、どんどん発信してくれば、それはもう大きな力ですね。すでに発信してくれていますが、それをもっと広めてくれればと思っています。

また、この大会はITF(国際テニス連盟)のカレンダーに「ナナオ」という名前で載っています。選手たちは「ナナオ」と言っている大会を愛してくれています。まずはそれで、七尾の名を世界に発信したいです。私も有名な友人がいたり、たまにですが最近テレビに出たりするチャンスもあるので、「七尾のふるさと大使です」と言って、七尾の素晴らしい魅力を広めていきたいと思っています。

